

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	先進的ケア・ネットワーク開発 研究分野
学籍番号		院生氏名	増原 真砂子
通学キャンパス			
論文題目	特別養護老人ホームにおける介護過程の展開プロセスに関する研究 —個別ケアの支援を中心に—		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 研究の概要</p> <p>本研究は、特別養護老人ホームにおける介護過程の展開プロセスに関する現状と課題を明らかにする目的で、実際の介護現場で働いている介護福祉士が行った調査研究である。まず、25 施設 298 名の介護職員に対し、個別ケア、やりがい、利用者の自立度の状況把握などに関する質問紙調査を行い、相関分析、一元配置分散分析、自由記述の類別化を実施した。その結果、介護記録上の問題として不明確な目標と課題の記載、個別ケアの実践はやりがいを感ぜさせる傾向にあること、利用者の自立度は排泄場所、役割の有無が関係していたことが明らかとなった。次に、15 名の施設長に半構造化面接を実施し、コーディング、カテゴリ化して内容を分析した。その結果、15 上位カテゴリ、53 中位カテゴリ、114 下位カテゴリが抽出され、施設長は排泄の自立を介護方針に挙げていること、介護職員の人員数・教育の不足、介護過程の展開にはアセスメントが重視であること、介護技術の向上には経験や意識が重要であると捉えていることがわかった。これらより、介護過程の展開プロセスにおいて、排泄の自立と役割の支援を中心に円滑な実践をすべきで、思考過程を適切に言語化するためにも研修などの強化の必要性があり、これらの経験が介護の専門性・地位の向上、利用者の満足に繋がると考えられた。さらなる施設介護の向上には、地域との協力が今後の課題である。本研究の意義は、介護過程の展開プロセスの現状と課題を明らかにし、その改善指針を提示することで介護職員の質的向上をもたらすことにある。</p> <p>2) 研究方法 倫理的な問題を含め問題の核心に迫るに足る方法であった。また、論証の方法、論文の形式についても適切であったと考える。</p> <p>3) 知見の新規性と価値 本研究の新規性は、実際に働いている介護福祉士が、施設管理者と介護者の双方に現状調査を実施し、介護過程の課題と今後の方向性を示した点にある。施設の質的向上に向け、現場から捉えた着眼点はすばらしく、今後の介護の専門性の向上に繋がる研究と考えられる。</p> <p>2. 審査経過について</p> <p>審査会は 2 回開催し、初回審査で、論文全体として章立ての再考、調査に使用した評価表の全貌の提示と説明の加筆、下位カテゴリの再検討、考察の表現の再検討、数値の桁数の統一、目的と結論との関係を総合考察の再考に基づき明確にすることがあげられた。2 回目の審査では、初回の指摘はほぼ修正されたが、未だ目的・結論の明確化が不十分であること、下位カテゴリとコードとの整合性の確認および修正、引用文献・脚注の表示の統一を指摘し、さらなる加筆修正を求めた。最終提出論文では、これらもすべて修正された。</p> <p>3. 口頭試問の結果</p> <p>口頭試問においても、適切に応答し、理解しやすい説明がなされていた。</p> <p>4. 合否</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (介護福祉・ケアマネジメント学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	鈴木 孝治	
	副 査	山本 康弘	
	副 査	東島 弘子	